

# 札幌市公立夜間中学設置基本計画（案） に対する御意見の概要と札幌市の考え方

札幌市公立夜間中学設置基本計画（案）について、令和3年2月4日から3月5日までの約1か月間、市民の皆様から意見募集を実施いたしました。たくさんの御意見をいただき、誠にありがとうございました。

いただきました御意見を参考に、基本計画案を一部修正するとともに、今後の詳細な検討に当たりまして、参考にさせていただきます。

また、本資料にて、いただいた全ての御意見の概要と、それに対する札幌市の考え方を御報告いたします。

なお、皆様からの御意見は、できるだけ趣旨に沿って取りまとめておりますが、同意と思われるものを一つにして、要約しておりますことを御了承願います。

今後とも札幌市の公立夜間中学に対しまして、御理解をいただきますとともに、御支援と御協力をお願いいたします。

## 【目次】

- 1 意見等の募集について
- 2 意見等の結果について
- 3 各章に対する意見の概要とそれに対する札幌市の考え方

令和3年（2021年）3月

札幌市教育委員会

市政等資料番号  
01-S02-21-758

## 1 意見等の募集について

### (1) 募集期間

令和3年（2021年）2月4日（木）～令和3年（2021年）3月5日（金）

### (2) 募集内容

- ・札幌市公立夜間中学設置基本計画（案）に対する意見
- ・本基本計画（案）に基づき、令和4年4月に開校を予定している公立夜間中学の校名案

※計画に対する御意見と校名案のどちらか一方の提出でも可。

### (3) 募集方法

持参・郵送・ファックス、電子メール、札幌市ホームページの入力フォーム

### (4) 資料配布・閲覧場所

- 札幌市教育委員会学校教育推進課
- 札幌市役所2階 市政刊行物コーナー
- 各区役所総務企画課広聴係
- 各まちづくりセンター
- 市立中央図書館・地区図書館
- 札幌市の公式ホームページ など

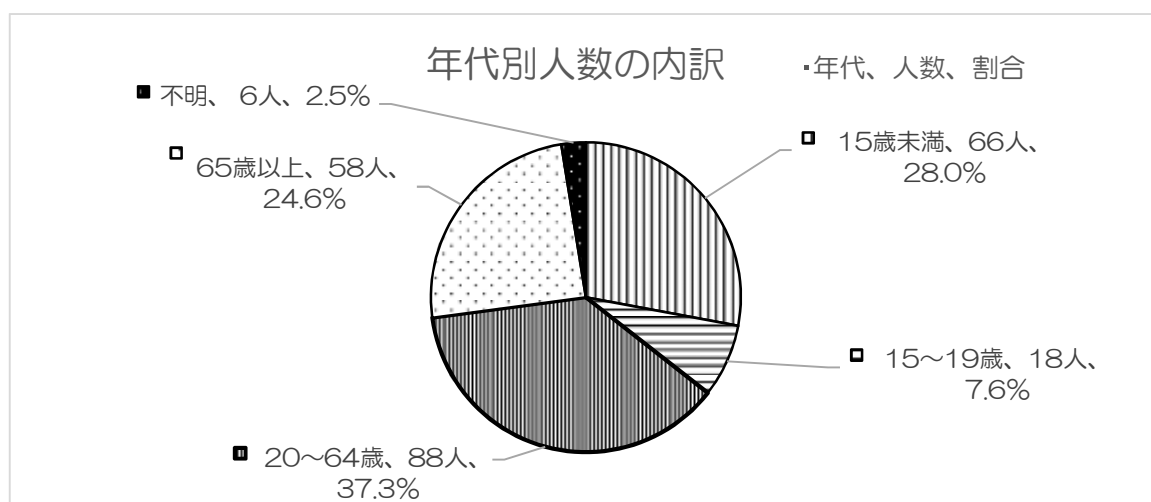
## 2 意見等の結果について

### (1) 意見提出者数・意見件数

意見提出者数	236人
意見件数	444件

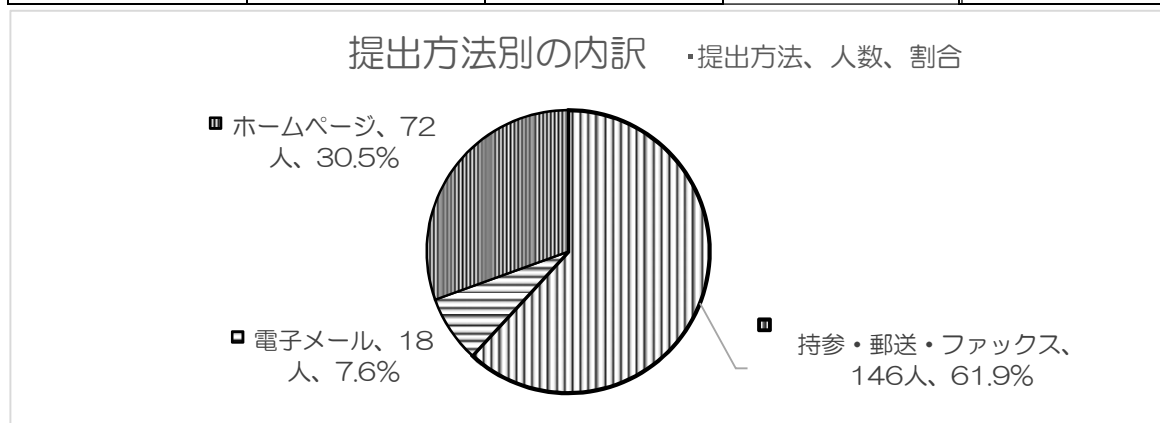
### (2) 年代別内訳

年代	15歳未満	15～19歳	20～64歳	65歳以上	不明	合計
人数	66人	18人	88人	58人	6人	236人
件数	70件	25件	169件	169件	11件	444件



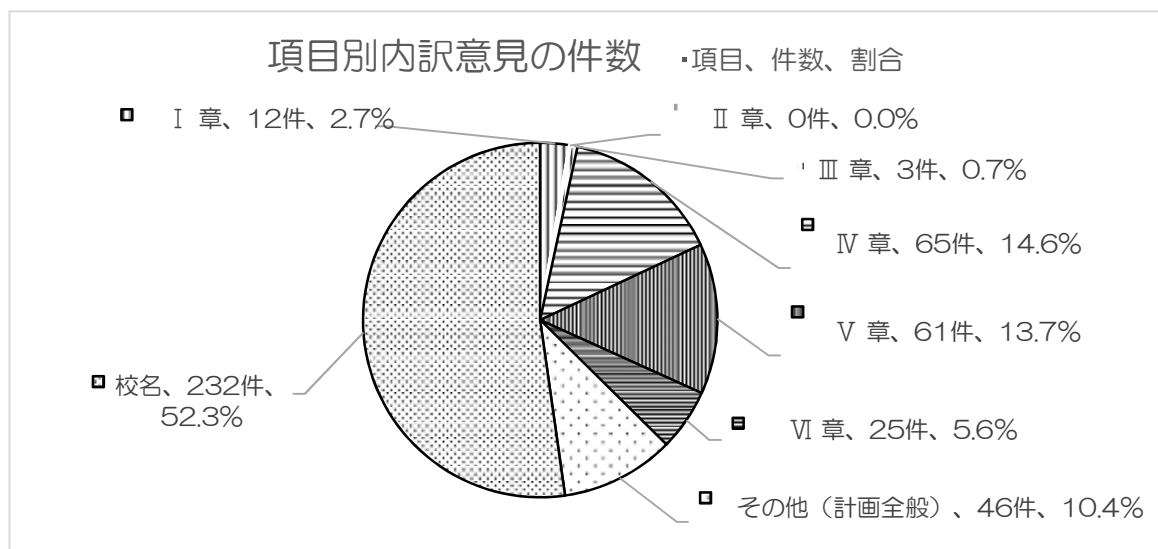
(3) 提出方法別内訳

意見提出方法	持参・郵送・ファックス	電子メール	ホームページ	合計
提出者数	146人	18人	72人	236人
構成比	61.9%	7.6%	30.5%	100.0%



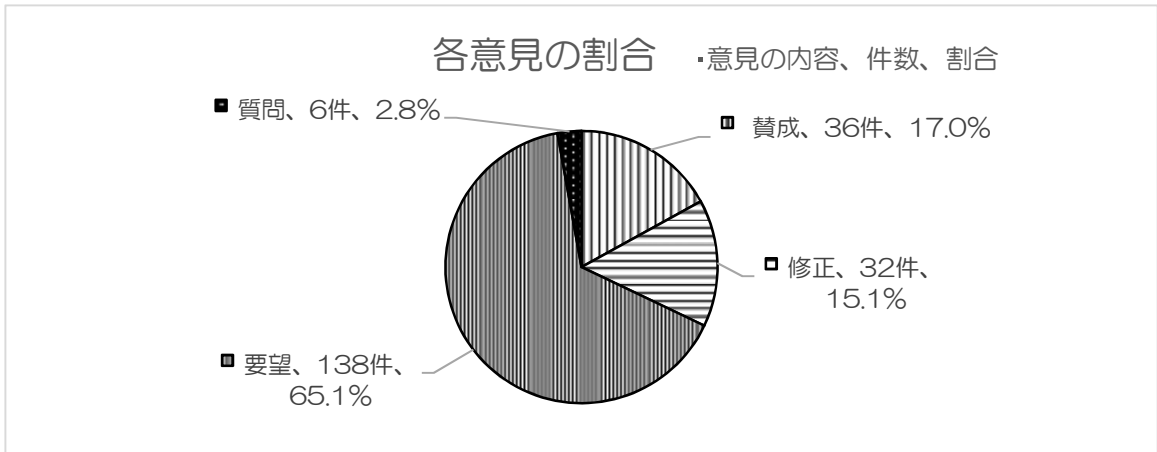
(4) 項目別内訳

項目	意見件数	構成比
I 章	12件	2.7%
II 章	0件	0.0%
III 章	3件	0.7%
IV 章	65件	14.6%
V 章	61件	13.7%
VI 章	25件	5.6%
その他（計画全般）	46件	10.4%
校名	232件	52.3%
合計	444件	100.0%



(5) 各意見（校名を除く）の割合

意見の内容	意見件数	構成比
賛成	36 件	17.0%
修正	32 件	15.1%
要望	138 件	65.1%
質問	6 件	2.8%
合計	212 件	100.0%



(6) 意見の詳細

いただいた意見の詳細及び回答については、詳細版として札幌市公式ホームページに掲載しています。

ホームページアドレス

<https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/kihonkeikaku.html>

3 各章に対する意見の概要とそれに対する札幌市の考え方

章(項)	主な意見の概要	回答
I	私は長い間このような夜間中学校に行って学べたらどんなによいかと思っていました。私は本は好きでも数学はまったくわからなかったです。ぜひ、入学して色々なことを学びたいです。 (他同趣旨1件)	令和4年4月に、札幌市に公立夜間中学を設立することになりました。長い間お待ちさせた方もいるかもしれません。入学資格の合う方に、一人でも多く、入学していただきたいです。
I	公立夜間中学の新設に向けて、市の教育委員会の取り組み姿勢は、とても素晴らしい。本計画案を読み、とても丁寧な検討がなされていると思う。在り方検討委員会で議論された素晴らしい理念を具現化されることを期待している。 (他同趣旨9件)	在り方検討会議において、有識者の方々に札幌にふさわしい公立夜間中学の在り方について、議論していただきました。本基本計画は議論の内容を具体化したものとなっております。今後も理念の具体化にむけて取り組んでまいります。
Ⅲ 3	アンケートの回答で、不登校、外国籍層で「入学しない」方が多いが、入学に前向きではない人の理由は、何がが多いのか。	今後、関係機関と連携しながら、学校説明会などの公立夜間中学の周知の場において、理由の把握などについて努めるとともに、今後の学校づくりに生かしてまいります。
Ⅲ 3	アンケートの回答で、不登校、外国籍層で「入学しない」方が多い。その理由についても、調査・分析はした方が良い。 (他同趣旨1件)	
Ⅳ 1	基本方針(目指す姿)とても素晴らしいです。大切なことが網羅され、良い学校を創ろうという思いがあらわれている素晴らしい内容だと思います。ぜひこのような学校づくりを実現して下さい。 (他同趣旨5件)	「生徒の誰もが安心して、学びの主演となるよう、生徒の多様性を尊重する学校」づくりに取り組んでまいります。
Ⅳ 1	多様な生徒がいて、多様なニーズがあり、それをなるべく叶えていくということだと思いますが、反面全員で同じことに取り組むことに中学校の活動の重要な側面がある気がします。個人的にやりたいこともやりたくないことも、協力して乗り切ることは社会に出てからも必ず必要になる能力です。学校の目指す方向を見ると、個が強調されていて、集団についてはあまり言及がないように思えました。	計画の中で、共に学び合いながら、多様さを尊重することを学校づくりの視点に入れています。体験的な学習などに取り組みながら、生徒同士はもちろん、生徒も教職員も、共に学び合いながら、社会に出てから活かすことのできる力を育ててまいります。
Ⅳ 1	一人一人の思いや願い、目標は異なるものなので多様なものを一つに集約した学校づくりは難しいものがあります。そのため、なるべく早く、一人一人と話し合い、個々の希望や考えを知る機会をもち、彼らのニーズを的確に把握することが大切だと考えます。 (他同趣旨2件)	アンケートからもそれぞれ異なるニーズをお持ちであることが分かりました。入学前にどのようなニーズをお持ちなのか良く聞き取りながら、生徒とともに望ましいカリキュラムをできるだけ生徒に合わせて検討していきます。また入学後も生徒に寄り添い、常にカリキュラムの見直しを図っていく予定です。

章(項)	主な意見の概要	回答
IV 2 (1)イ	<p>高齢者と形式卒業者が一緒に教室で学ぶ困難さが考えられます。中学校卒業の資格を得ようとする人と、学びを求めてくる人の学力の差は大きいと思います。小学校の学習内容までさかのぼり、一人一人がどこにつまずき、何が理解できていないかを見極め、学習を進めてほしい。また学習内容は小学校の内容でも、大人の生徒に合った、生活体験を生かした教材作りを心がけてほしい。 (他同趣旨3件)</p>	<p>国籍や年齢などの多様な生徒が在籍できるという特徴を生かし、共に学び合える学校づくりを目指したいと思っています。その中で、卒業後すぐに社会参画できるよう、小学校の学習内容を実社会と結びつけて学ぶことも含めて、可能な限り個に応じた学びが実現できるよう取り組んでまいります。</p>
IV 2 (1)イ	<p>よく「学び直し」という表現が使われているが、それだと、「かつて学んだけれど年月を経てもう一度学んでみたい」という意味であるとの誤解を生み、「生涯学習の場」とであると混同される可能性がある。公立夜間中学は、かつて「学べなかった」「『学ぶ』という当然の権利を行使できなかった」人たちが、「義務教育に相当する『学び』という当然の権利」を受けられる場であることをより明確にするべきだと思う。そのため、ここで述べられている内容は「学び直しの実現」ではなく、「個々に応じた学びの実現」が適当だと思う。</p>	<p>ご指摘の通り、公立夜間中学は、生涯学習機関ではなく学校教育機関であり、入学対象において、「学齢期を過ぎた方で中学校を卒業していない人、または、卒業していても不登校等の理由により、十分に学ぶことができなかった人」と明確にしております。一方、当該項目では、中学校であっても、個に応じて、小学校の学びを行うことを分かりやすく表現するために「学び直し」としてしております。そのため、記載内容は修正しませんが、誤解が生じないように、適宜、説明してまいります。</p>
IV 2 (1)ウ	<p>ICT(情報通信技術)を活用し、情報リテラシーの向上にむけた学習を検討してほしい。</p>	<p>ICTをはじめ、様々な学習機器を活用する中で、実社会で生きるよう、情報モラルを含む情報活用能力を育てる情報教育を実施してまいります。</p>
IV 2 (1)ウ	<p>生きていくに当たって、学問は必要不可欠で、特に読み書き、計算能力はその必須条件です。このため、一人一人に合った学習や、基礎、基本の確実な定着、そして現実社会を生き抜くための実践的な指導をしてほしいです。 (他同趣旨2件)</p>	<p>タブレット端末などを活用し、一人一人の習熟の度合いや理解の進度に応じた学び直しを実現してまいります。また、学ぶ意欲、思考力・判断力・表現力等とともに、基礎的・基本的な知識及び技能を学び、社会で生きる「学ぶ力」を育ててまいります。</p>
IV 2 (1)エ	<p>生徒は、学べなかったことを自分の責任として捉えていることが多く、夜間中学に通うことを周囲にすぐには明らかにできない場合もある。歴史や社会情勢の中で、学べなかったのは決して自分の責任ではないと理解して、自己の生き様を肯定的に捉え、さらに成長を実感できる学びの場をつくれることが重要ではないか。このため、「自己の成長を実感」を「自己の生きてきた過程を肯定し成長を実感」にしてほしい。</p>	<p>公立夜間中学の学びを通して自己の成長を実感するためには、自己肯定感が大切であると考えています。ただ、現在の自己を肯定するために、必ずしも、自己の生きてきた過程を全て肯定することが必要なわけではなく、過去の捉え方は、各人各様であって良いと考えています。そのため、記載内容は修正しませんが、過去、学ぶことができなかった理由の如何に関わらず、公立夜間中学での学びを通して、現在の自己を肯定するとともに、成長を実感できるような学校づくりに取り組んでまいります。</p>

章(項)	主な意見の概要	回答
IV 2 (1)オ	外国から来た人たちが、一般的な言い方を使うことも受け入れつつ、正しい日本語を指導してほしい。そのためには、公立夜間中学が札幌市の日本語センター機能をもつことや母語支援についても検討してほしい。 (他同趣旨2件)	日本語に不安のある生徒が、日本語での教科学習や学校生活に適應できるよう、日本語指導を行ってまいります。また、国際都市札幌の特徴を生かした様々な交流や多文化共生を進める国際プラザと連携し、様々な支援ができるよう検討してまいります。
IV 2 (1)キ	卒業後の進路や将来について、自分らしい生き方を実現できるようにしてほしい。 (他同趣旨1件)	卒業後の進路はもとより、学ぶことと自分の将来とのつながりを意識しながら、自分の将来を設計できる力を身に付けられるよう、自分らしい生き方を実現できるように支援してまいります。
IV 2 (1)キ	自分らしい生き方ができるよう自分一人ではなやまず、周りの人が支えになるということがいい。	
IV 2 (2)ア	教科によっては、一斉授業に加え、じっくり学べる個別授業の併用が必要だと思う。今後の入学希望者の人数等に応じてクラスの数や少人数指導体制などを柔軟に対応できるようにしてほしい。 (他同趣旨1件)	学習する教科等によっては、習熟度別にクラスを分けたり、一つのクラスで個別指導や少人数での指導を導入したりするなど、教科担当の教員だけではなく、複数の教員等で指導する体制づくりに取り組みます。
IV 2 (2)ア	通う方の目的は、基本的な識字力の習得から、高校受験に必要な学力の習得まで多様であるから、習熟度別にクラスを分けたり、個別指導や少人数指導の導入には賛成である。	
IV 2 (2)ア	耳が不自由なので、聞こえる人たちと同じペースで進むのは難しいです。聞こえる人たちと一緒に勉強する時は通訳してくれる方を希望します。	障がいのある方の受け入れにあたっては、入学前に状況を丁寧に聴き取り、どのような受け入れ体制が可能かについて相談してまいります。
IV 2 (2)イ	継続した学校生活に向けた環境への配慮に、身体的経済的事情等に配慮するとあるので、女性への配慮も検討してほしい。例えば子育て中の女性にも、学びを必要とする方がいると思うので、出来れば子育てする女性にも学びを保障してほしい。	様々な事情で学校生活を断念することがないよう、生徒一人一人の困りに応じた適切な支援の在り方について検討してまいります。
IV 2 (2)イ	習熟度別・個別授業となると、教員数が足りなくなるので、一般市民や大学生、元教員などのサポーターの協力が必要と思う。そのためには、予算を組んで交通費程度は支出できるようにしてほしい。 (他同趣旨1件)	基本計画中にある「学びのサポーター」は有償ボランティアであり、謝金をお支払いしてご協力いただいております。今後、「学びのサポーター」の活用も含め、夜間中学に適したボランティアの方への仕組みについても検討してまいります。

章(項)	主な意見の概要	回答
IV 2 (2)イ	通常の学校システムと異なり、生徒は年令の幅も人生経験、家庭環境、友人関係も様々です。少しでも人生の楽しみ・楽しみ・知恵を得た年長者が加わってサポートするなど、先生以外の人間が参加する意味は大いにある。 (他同趣旨1件)	学びのサポーターなどのボランティア等を活用しながら、一人一人に合わせた学習支援体制づくりに積極的に取り組みます。
IV 2 (2)イ	若者・成人基礎教育の学習サポートは学齢期の子どもたちの学習サポートとは異なる側面があるため、自主夜間中学での指導経験のある方などをボランティアとして活用して一人一人にきめ細かい対応をしてほしいです。 (他同趣旨2件)	
IV 2 (2)ウ	教師と生徒の距離が遠く感じることはないよう、教師と生徒が気軽に接することのできるような環境を作ってほしい。そして、夜間学校に通うために昼間何をしているかにもよるが、不登校を経験した生徒が、再び不登校にならないようにしてほしい。 (他同趣旨4件)	担任や教科指導の教諭に加え、養護教諭の配置やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを派遣できるよう体制を整備し、専門家の支援を受けながら、きめ細かな教育相談の体制づくりに取り組みます。
IV 2 (2)エ	働いていて仕事後に通学する人にとっては、給食の実施は必須だと思う。空腹では集中して学習できないので是非実施してほしい。 (他同趣旨9件)	夜間のため、どのような実施方法が可能であるか検討しながら、給食等の提供を実現できるように努めてまいります。
IV 2 (2)エ	経済的理由で学びを断念される方が出ないよう、就学援助を実施してほしい。特に、交通費の援助は、遠方から通学する人々もいると思うので、ぜひお願いしたい。 (他同趣旨5件)	経済的事情で学校生活を断念することが無いよう、就学援助に類する経済的支援の実施について、検討してまいります。
IV 2 (2)エ	車イス使用者は通学の問題が大きい。特に冬場は通学に危険が伴う。安心して通学できる体制を保障してほしい。	校舎がバリアフリーである資生館小学校では、エレベーターを使用することができます。通学については、どのような支援が必要なのか、個別に相談してまいります。
IV 2 (2)エ	健康面や精神面においても学びが断念されないようにしてほしい。	他の公立中学校で実施されている健康診断について公立夜間中学でも実施してまいります。また、生徒が安心して通うことができるよう、教育相談体制を充実してまいります。
IV 2 (2)エ	学びたい全ての生徒が継続して学校生活を送れるような環境を提供してほしい。	学びのセーフティネットの役割が求められることから、身体的経済的事情等で学校生活を断念することが無いよう、施設・設備の配慮や、生徒が負担する費用の低廉化への配慮に加え、就学援助に類する経済的支援の実施や給食等の提供についても検討してまいります。



章(項)	主な意見の概要	回答
IV 2 (2)オ	20年以上日本に在住していても、読み書きが不自由だったり、日本語でコミュニケーションをとるのが難しいことがある。言葉の問題などが生じると思うが、それらにも配慮した教育課程が作られ、一人一人に合った日本語指導をしてほしい。 (他同趣旨2件)	日本語指導の教材や映像等を活用した学習を積極的に取り入れるなど、生徒の理解度に応じた複数の授業を実施してまいります。
V 1	一般の方々も勿論大事ですが、現役中学生も大事。昼間の中学校には不登校等により通えなくても、公立夜間中学なら通学して卒業できる人がいるはず。それぞれが沢山の悩みを抱えている中で一緒に学習出来る場合は、お互いを尊重しながら通えるのではないかと。特例的に夜間中学を選択する権利があっても良い。夜間中学で学びの喜びを取り戻し、自己実現へ進めるのではないかと。しかし、その場合は保護者などが迎えに来れるなど通える生徒が限定されてくるかもしれないので、慎重に検討するべきかとも思う。 (他同趣旨5件)	公立夜間中学において、学齢期の生徒を入学対象とする場合には、不登校特例校の指定を受ける必要があることから、すでに札幌市で実施している施策との兼ね合いを整理したうえで、改めて、その効果や影響等を検討する必要があります。そのため、現在の基本計画の段階で、学齢期の生徒に関することまで言及することは、難しいと考えています。
V 1	入学対象に、「全日制の公立中学校に通っている生徒も学びを希望すれば入学可能」や「満15歳以下の人の入学について、今後の検討課題とする」という言葉を入れてほしい。 (他同趣旨8件)	
V 1	札幌市の近隣市町村において相当数の義務教育未就学者がいると報告されているが、入学者を札幌市民に限ることなく広く門戸を開放し、近隣の市町村からも入学できるような方策がとられると良い。 (他同趣旨4件)	札幌市で設置する公立夜間中学については、現時点では北海道内に一校であることから、北海道教育委員会の協力の下に連携の意向がある近隣市町村に在住の方についても受け入れる方向で調整を進めます。
V 1	札幌市外に住んでいる場合、この文章では、自分が住んでいる市町村に負担をかけるのではないかと、手を上げづらく感じるため、「原則札幌市内に居住する人」に「札幌市立ですが、札幌市内に住んでいる方だけでなく、札幌市以外に住んでいる方も応募できます。」や「なお、札幌市以外に住んでいる方も応募できます」と加えてほしい。 (他同趣旨1件)	札幌市が設置する公立学校であるため、第一義的には、札幌市内に居住する人が入学対象になることから、このように表現しています。そのため、記載内容は修正しませんが、現在、近隣市町村にお住まいの方の受け入れに関して、関係機関と調整を進めているところであり、8月の入学説明会までには、受け入れ可能な市町村を明確にするとともに、入学募集パンフレット等においては、安心して応募できるよう、表現方法を工夫してまいります。

章(項)	主な意見の概要	回答
V 1	外国籍の方も通えるようにしてほしい	公立夜間中学は、過去に何らかの事情で、義務教育を十分に受けることができなかった方に対して、教育を受ける権利を保障するために札幌市が設置する学校であることから、入学資格については、居住要件に加え、「中学校を卒業していない人、または、卒業していても不登校等の理由により、十分に学ぶことができなかった人」としています。この要件に該当すれば、外国籍の方もご高齢の方も入学可能です。詳細な基準につきましては、今後開校準備を進める中で整理をしていくことを考えています。
V 1	71歳以上も入学が可能か。	
V 1	学齢期を過ぎた方も入学できることに賛成している。	
V 1	不登校などの「など」を具体的に書いてほしい。	
V 1	誰でも入れるようにし修正してほしい。	公立夜間中学は、生涯学習機関ではなく学校教育機関であり、過去に何らかの事情で、義務教育を十分に受けることができなかった方に対して、教育を受ける権利を保障するために札幌市が設置する学校であることから、入学資格については、居住要件に加え、「中学校を卒業していない人、または、卒業していても不登校等の理由により、十分に学ぶことができなかった人」と明確に記載する必要があると考えています。
V 1	生活保護を受けていても、通えるのか。	生活保護を受給されている方も入学資格を満たしていれば入学可能となります。
V 3	単独校は本当にうれしくて感動いたしました。ここまで頑張ってくださった担当の方々に感謝します。道民、札幌市民悲願の公立夜間中学校、しかも単独校設立を心から歓迎します。 (他同趣旨1件)	設置形態については、既存中学校に開設する「二部学級」、本校の中学校と離れた箇所を設置する「分校」、公立夜間中学をひとつの学校として設置する「単独校」という三つの形態がありますが、札幌市では、夜間中学における教育活動の充実と独立性を重視し、単独校で設置することで、市民の皆様の期待に応えられるような学校を目指してまいります。
V 3	多くの困難を抱えながらも学ぶ意欲を持つ生徒によりそった教育課程を編成するためには、教職員の配置、特に教員の人数は大きな要素である。教員数の不足で出来ないこと、逆に教員数を増やすことで解決できることはかなり多い。 通常の公立中学校では様々な項目での教員加配がなされている。夜間中学でも活用できる制度は活用し、さらに札幌市独自の教員加配をするなど、一人でも二人でも教員数を増やすことを強く要望します。 (他同趣旨4件)	公立夜間中学については、多様な生徒の方が在籍することが想定されることから、より多くの教職員を配置できるよう、単独校として設置し、ボランティアなどを含めた様々な外部人材の協力なども得ながら、生徒の誰もが安心して学べる体制を整えたいと考えています。

章（項）	主な意見の概要	回答
V 4	1学年1学級ありきとするのではなく、生徒の入学希望状況、生徒の環境、背景に応じて多種多様な指導、少人数指導の大切さを考慮すると1学年2学級にする余地も残しておいた方がよい。	札幌市民に対するニーズ調査、及び全国の公立夜間中学の平均在籍者数が52名程度であることを踏まえ、基本計画段階では、学校全体で120名程度の受け入れが可能な1学年1学級規模で十分に対応できるものと考えております。なお、多様な生徒にきめ細かく対応するため、実際の授業展開においては、必要に応じて、習熟度別にクラスを分けたり、一つのクラスで個別指導や少人数での指導を併用したりするなど、可能な限り工夫してまいります。
V 4	1学年1学級で、少人数制も取り入れるとありますが、教室の数が足りなくなるのではないかと。	公立夜間中学のホームルーム教室については、3教室を専用教室とし、理科室や家庭科室、図書室などの特別教室や体育館については、資生館小学校と共有して教育活動を行うことを予定しています。また、習熟の度合いによっては少人数での指導も必要と考えていますので、夜間中学専用の3教室に加え、共有する会議室や音楽室なども普通教室と同じように活用して授業を行うことを想定しています。
V 5	当面は良いが、将来的には適切な場所に独立の校舎を設置するのが良い。	交通利便性や校舎がバリアフリーであること、早期開設が可能なことなどを勘案して、資生館小学校での開設を判断させていただきました。開校後についても、公立夜間中学にふさわしい学習環境について適宜検討していきます。
V 5	本校を単独校とするならば、設置場所として資生館小学校は、交通の便が良く、とても良いと思う。	交通利便性や校舎がバリアフリーであること、早期開設が可能なことなどを勘案して、資生館小学校での開設を判断させていただきました。開校後についても、公立夜間中学にふさわしい学習環境について適宜検討していきます。
V 6	入学時期、編入学対応ともに賛成で、修業年限も、1コマ40分を1日4時間授業というのは一般の中学校よりも少ないが、最長6年間の在籍を可能とするということで、じっくり学び直すことが出来ると思う。 (他同趣旨1件)	市民アンケートの結果からも、じっくり学ぶことを望むニーズが確認されました。また、小学校からの学び直しを希望する層も一定程度いることから、通常の中学校の3年間の修業年限を基本としつつも、必要に応じて3年以上の在籍を可能とすることで、生徒の誰もが安心して学びの主角となる学校となるよう取組を進めていきます。

章（項）	主な意見の概要	回答
V 6	<p>入学者各々の事情が異なるので、修業年限を最長6年と固定するのではなく、6年をめどにしつつも生徒の学習の習熟度、意欲、年齢も加味し柔軟に対応してほしい。個々人の特別な事情による場合を想定し、卒業前の個人面談による校長判断によって、年限延長が可能であることを、最長6年の文言に加えてほしい。 （他同趣旨14件）</p>	<p>公立夜間中学は、社会生活等の経験がある学齢期を過ぎた方が週5日毎日通う学校であり、小学校の学び直しから始めたとしても、最大6年間で義務教育9年間の学びを終えることができると考えております。併せて、様々な事情があったとしても、最大6年という目標をもったうえで計画的に学びに向き合うことが望ましいと考えたものであり、理由の一切を問わず、6年をもって機械的に退学とすることを意図しているものではありません。そのため、「原則」との文言を追加し、「最長6年」から「在籍上限原則6年」に表現を修正します。</p> <p>⇒「在籍上限原則6年」に修正</p>
V 7	<p>入学時期も9月までとしており、また編入学も可能としているため、自分に合った時期、学年から学べるのは良い。修業年限、入学時期、編入学対応ともに賛成する。 （他同趣旨1件）</p>	<p>市民アンケート結果からも柔軟な入学制度に対する要望が大きいことが確認されました。その一方で、年度の途中からの入学については、年間で参加できる授業時数が少なくなることも懸念されるため、上半期に当たる9月まではいつでも入学できることとし、生徒の誰もが安心して学びの主角となれる学校となるよう取組を進めていきます。</p>
V 7	<p>入学期間を9月までを可能期間とすると、9月以降、入学希望者は待機する期間が生じるので、入学期間は設けず、通年を通して入学可能と変更すべき。もしくは、9月以降の入学希望者には、授業を聴講する機会を設けるなど、公立夜間中学でも学べない人がでてこないよう、教育機会の保障も考える必要がある。 （他同趣旨1件）</p>	<p>学校教育では、基本的に、4月から3月までの年度単位で教育課程を編成し、計画的に教育活動を進めています。これは公立夜間中学でも同様であり、本来、生徒にとっては4月入学が望ましいところですが、入学希望者の様々な事情を最大限考慮し、共に学ぶ他の生徒との進捗との差を踏まえつつ、可能な限り柔軟な入学可能期間を設定する観点から9月までとしています。そのため、通年入学可能への修正はしませんが、10月以降も、随時、授業見学を行うなどの対応を考えてまいります。</p>
V 8	<p>柔軟な編入学対応に賛成します。</p>	<p>一人一人の学習歴や入学時点での学習習得状況を踏まえるとともに、高等学校等への進学や就職などを目指す生徒に適切な学びの期間を設定する観点から、中途学年の2年、3年からの編入学も可能とし、生徒の誰もが安心して学びの主角となれる学校となるよう取組を進めていきます。</p>

章(項)	主な意見の概要	回答
VI 1	新規開設する公立夜間中学と、長年活動している札幌遠友塾自主夜間中学その他の民間学習支援団体との連携・協力関係をしっかりと築いてほしい。 (他同趣旨1件)	札幌遠友塾については、様々な事情により、十分な学びの機会が得られなかった方々のために、平成2年から学びの場を提供している団体であり、様々な場面での連携を進めたいと考えています。
VI 1	自主夜間中学として公立夜間中学にも、協力できることを一生懸命やっていきたい。	
VI 1	大通高校と次のような連携をしてほしい。 両校の教員資質向上につながるため、授業などのゲスト講師・時間講師や、学校運営協議会のオブザーバなどの相互交流を行い、教職員の校内研修を一部共通化する。 授業は単位制ではないが、大通の授業に受け入れたり、ちえりあ講座へ参加したり、ボランティアとして「学校外の学修」扱いで高校生の派遣、ZOOM等による相互参加を行う。 授業以外の教育活動として、参加を通して学びが深いものになるため、食堂の共同利用、居場所カフェへの参加、運営への参加、生徒会行事、部、サークル活動の共有、プレゼン大会への参加、公式サイト・メディア局・学校説明会などでの連携を周知する。 進路指導は進路決定に困難を抱える人は早期のキャリア学習が必要なため、進学者に対する情報共有、中学教員の進路指導研修、就労体験への参加などを行う。 社会体験活動として、まちづくり、地元連携などの取組や遊語部の活動に渡日帰国中学生を参加させ、中学はそれをインターンシップ扱いにするなどを行う。	いただいた意見を参考に、ともに多様性を重視する学校として、様々な教育活動について連携を進めたいと考えています。
VI 1	市内で活動している日本語の学習支援をしているボランティア団体とも協力・協働の関係を構築すべく働きかけをしてほしい。また、課題を抱えて夜間中学に通ってくる学習者を中心に据えるとき、福祉分野などとの連携も不可欠である。 (他同趣旨4件)	基本計画に記載のある団体に限らず、公立夜間中学の取組の充実に向け、様々な関係機関や各種団体との連携を検討していきます。
VI 2	規則や制度の隙間から落ちこぼれないよう、本当のセーフティーネットになるためには、社会の変化や事情に応じた柔軟な対応が必要である。学校運営にあたっては、「最初にうちたてたものを変えない」というものではなく、弾力的かつ柔軟性をもったものになるべきだと考える。 (他同趣旨4件)	公立夜間中学は、札幌市として初めて設置する学校であり、主役である生徒のニーズを踏まえ、常に変化し続ける必要があります。そのため、開校後も学校評議員制度などを積極的に活用し、より広範な関係者の意見を聞きながら継続的に学校の運営状況を把握し、適宜改善に向けた取組を進めてまいります。

章(項)	主な意見の概要	回答
Ⅵ 3	かなり理想的な学校になりそうなので、この理念がほかの学校(小中高)にも広まるよう、昼間の教員の方々にも夜間中学への理解を深めていってほしい。 (他同趣旨1件)	他の市立学校教員への夜間中学での研修機会の提供や市立小学校等との人事交流を進めるなどして、夜間中学の理念の普及や教員の資質の向上に努めてまいります。
Ⅵ 3	どんな学校になるかは教員の影響が大きい。そのため、全国の素晴らしい実践をしている夜間中学との交流や視察を遠して実際の授業、運営を学ぶよう、研修を充実させてほしい。 (他同趣旨1件)	他都市の先進事例に学ぶことも含め、公立夜間中学に勤務する教員の研修を充実させたいと考えています。
Ⅵ 4	市民への広報手段として、月一発行の広報さっぽろに学校便りのページを作成したり、札幌以外の近隣市町村に在住する方々へ向けてホームページやSNS等の活用してほしい。パンフレットの種類も日英中韓だけで足りるのか不安だ。 必要な人に届くように市の広報誌に特集を組んだり、公共機関や地下鉄等にポスターを貼るなど、様々なメディアや方法を使って市民へ知らせてほしい。 また、近隣市町村の教育委員会と連携して、各市町村の広報紙などへの掲載、ポスターの掲示、入学説明会の開催など広く周知して欲しい。 (他同趣旨5件)	関係機関と連携しながら説明会を開いたり、外国語版パンフレットの作製、HPによる周知、様々なメディアの活用など、対象となる方やその周りの方々に届く情報提供を進めるとともに、夜間中学を広く理解していただくことを目的に市民への広報についても行ってまいります。
Ⅵ 4	市民への広報・周知などは具現化まで簡単ではないが、応援している。	
その他 (計画全体)	現在、働いており、親の介護や自分も病気などのため、毎日通ことはやはり困難である。このため、教科の内容や時間を柔軟に運用してほしい。高齢者にとっても、週5日間の毎日の学習は辛いので、特別の教育課程が用意されるようであるが、授業時間にも柔軟性を考慮してほしい。 (他同趣旨3件)	通常中学校については、週5日の6時間授業が一般的ですが、全国の公立夜間中学においては、教育課程の特例を活用し、週5日の4時間授業としているところが多くなっています。札幌市が設置する公立夜間中学についても教育課程の特例を活用し、適切なカリキュラムを設定してまいります。 また、何らかの事情により、継続的な通学が困難となる方については、学校生活を継続するための具体的な方法について生徒と共に考え、できることから実施するなど、丁寧かつ柔軟な対応に努めてまいります。
その他 (計画全体)	単独中学校として開設するのであれば「夜間」と限定する必要がないのではないかと。また、不登校層のために学校に登校するペースや時間がある程度選べるようにしたら良い。 (他同趣旨1件)	働いている方も対象となることから、夜間時間帯での実施を考えております。昼間の時間帯の活用方法については、今後検討していきたいと考えています。
その他 (計画全体)	高齢になると、どの教科の勉強も不安があるが、特に体育の授業は、10代と60代の人では体力的にも無理があると思いますが、どのような授業になりますか。	具体的な検討はこれからですが、比較的広い年齢層で行うことができる種目(卓球など)の設定や年齢によって種目を分けるなど、柔軟に検討してまいります。

章(項)	主な意見の概要	回答
その他 (計画全体)	全国の公立夜間中学には校歌をプロの人気歌手に作成依頼したところもあるようだ。札幌市の公立夜間中学においても札幌、あるいは北海道出身の歌手に作っていただき、すてきな、心はずむ校歌ができれば良い。 (他同趣旨2件)	札幌市が設置する公立夜間中学については単独校としての設置となることから、校名だけでなく、校歌や校章についても作成することを予定しています。公立夜間中学にふさわしいものとなるよう検討してまいります。
その他 (計画全体)	学校のシンボルとなる校章を作成してほしい。	
その他 (計画全体)	公立夜間中学の存在を広く知ってもらうために、簡潔で覚えやすい愛称を作してほしい。	公立夜間中学を多くの方に知っていただくために、様々な取組について検討していきたいと考えます。
その他 (計画全体)	5月以降に入学・編入した生徒の中には教科の学力に差がつくこともあるため、夏休みや冬休みに、学年関係なく受けられる講習を開催すると良い。 (他同趣旨1件)	具体的な学校づくりを行う中で、夏期講習や補習などの対応についても検討してまいります。
その他 (計画全体)	教員の人数も気になるが、頭数を揃えるだけではなく、外国人、年配者も混在する1間口で、体力も学力レベルも、格差がある中で教えていかなければならないことから、通り一辺倒の教え方しかできない先生ではなく、教え方に工夫することのできる先生にしてほしい。 (他同趣旨5件)	公立夜間中学には、学齢期に様々な理由により学ぶ機会を得られなかった、高齢者や不登校経験者、外国籍の方など、多様な生徒の入学を想定しています。このように多様な生徒の誰もが安心して学びの主役となれる学校の環境を整えることが大切であると考えており、中学校だけでなく、小学校等を含めた幅広い校種から教職員を配置するなど、多様な経験を持つ教職員がチームとなって学校づくりに取り組むことができるよう体制を整備してまいります。
その他 (計画全体)	入学への希望とともに、授業についていけるか、病気があるので体力的に通えるのか、仕事と両立は難しいなど、多くの不安を控えている人は多いと思う。出来るだけ早い段階での相談が出来るが良い。個別に抱える様々な不安のために入学に踏み切りがつかないでいる方が多いと思われるため、不安を和らげ入学への気持ちを後押しできるような個別相談を実施できると良い。 (他同趣旨1件)	現在、公立夜間中学に応募された方全員を対象に、学びたいことや配慮事項などについての個別相談を順次行い、それを踏まえたきめ細かな対応を検討するなど、全ての生徒が安心して通えるような準備を進めていきたいと考えています。
その他 (計画全体)	卒業後その生徒が教師やボランティアとして関わられるようにしてほしい。	卒業した生徒がボランティアとして関わっていただくことは非常にありがたいことだと考えます。生徒にそうした想いを持っていただけるような、より良い学校づくりを進めてまいります。
その他 (計画全体)	体育館の教具、図書室の蔵書、理科実験室などの教具などは、小学校と共有するのではなく、中学校仕様のものでほしい。	中学校の教育内容を実施するために必要な図書や教材については、新たに整備することとし、公立夜間中学として、適切な教育環境を提供できるよう取り組んでまいります。

章（項）	主な意見の概要	回答
その他 （計画全体）	日中に使用している教科書や資料本といった小学生の教材を今までどおり置き勉できるようにしてほしいです。	これから設置する公立夜間中学は、資生館小学校が現在使用していないところを夜間中学の専用教室として整備することから、資生館小学校の児童の校舎の使い方については基本的には変わらないものと認識しています。
その他 （計画全体）	図書室は、資生館小学校と共用とのことだが、小中学生だけでなく、大人が読めるような図書や参考資料も備えてほしい。夜間中学では、学校図書館に入るのが初めてという生徒がいると思うので、本を借りたくても、どの本がいいか迷うことのないように、生徒の要望を受けて、本を選んであげる専門の職員を配置してほしい。 （他同趣旨2件）	公立夜間中学についても図書室は非常に重要な場所だと考えています。読み書きの基礎から学ぶ方もいるものと想定していることから、資生館小学校の図書室に公立夜間中学用の図書も配架するとともに、小学校用図書も含めて、活用・貸出をしていくことを考えています。なお、活用・貸出にあたっては、担任や国語科の教科担任がサポートすることを考えています。
その他 （計画全体）	高齢者ばかりではなく、海外の方々も授業が聞き取りやすいように、教室でのピンマイクなど音響設置したほうが良い。	実際に入学される方の状況を踏まえながら、個に応じた対応に努めてまいります。
その他 （計画全体）	誰でも学べる夜間中学が一つしかないのは札幌の人口を考えると少なすぎるように思う。	札幌市のような政令指定都市に設置されている公立夜間中学の1校当たりの在籍者数の平均が45名程度であることから勘案すると、札幌市においては、交通便利地に1校の設置が適当と考えています。
その他 （計画全体）	開校して学校が始まってから、外国籍の方のニーズで「日本語学校」のような取り組みにならないか。外国籍の方に「公立の日本語学校」と認識されないように、日本語学校との違いをどう伝え啓蒙していくのが難しい。	公立夜間中学は、昼間の中学と同じ9教科を学ぶ場であることをしっかりと周知するとともに、入学前の個別相談の中でも、十分に説明することを考えています。
その他 （計画全体）	通学したいと希望する方が想像より少なく、定員割れとなった場合、学校存続はどうなるのか。	公立夜間中学については、全国の在籍者平均が52名程度であることから、札幌市が設置する公立夜間中学においても定員以下の在籍になることも想定して設置することとしましたので、定員を充足しないことのみを理由に閉校とすることなどは考えていません。
その他 （計画全体）	コロナ禍では、タブレットやPCを支給するなど、オンライン授業を受けられるようにした方がいい。	他の市立学校同様、現段階においては、対面授業を原則とすることを考えています。今後、コロナ禍の影響により対面授業が困難となった場合については、ICT機器を活用した対応についても検討してまいります。
その他 （計画全体）	札幌とその近隣だけでなく、オンライン等の活用で全道から入学できるように、他の市町村にサテライト教室を作り本校とオンラインで繋いだり、他の市町村立の夜間中学ができた際には相互にオンライン授業を実施したりなど、遠隔地を結びととも道内で交流できる仕組みづくりを模索してほしい。 （他同趣旨2件）	他の市立学校同様、現段階においては、対面授業を原則とすることを考えています。このことから、現状ではオンライン授業を前提とした他市町村在住の方の受入れについては想定していません。



章（項）	主な意見の概要	回答
その他 （計画全体）	担当部署の努力で希望溢れる「案」が示されたが、これを実現していくためには、札幌市行政全体の理解と協力、特に財政的な支えが必須だ。	公立夜間中学が目指す、誰もが安心して主役となれる学校となるために、必要な予算については確保していくことを考えています。
その他 （計画全体）	基本計画はお金のことは書かないのか。学校設置に係る費用、運営費、人件費、運営費などについて書かれていない、不透明である。	公立夜間中学の開設準備に係る令和3年度予算案として、46,000千円を計上しております。また、運営費については、国の補助金なども活用しつつ、必要な予算を確保してまいります。具体的な金額については、毎年度の予算編成の中で整理していくこととなります。
その他 （計画全体）	学校を運用するための費用について、公費に併せて、クラウドファンディングを利用してはどうか。	公立学校であることから、基本的には、学校運営費については、公費で賄うことを考えておりますが、クラウドファンディングに適した取組が生じてきた場合については、検討したいと考えます。
その他 （計画全体）	さしあたって令和4年のスタート時には、札幌市や近隣市町村に限っての開校を良しとするが、次にはその地域以外の北海道全体にいる公立夜間中学を必要とする方に対応する施策を行う必要がある。 また、自主夜間中学については、函館・札幌・旭川・釧路以外の地域にも必要に応じて、運営や学習指導のスタッフはボランティアを募り、学習会場の使用費や電気光熱費などの援助を行ってほしい。 （他同趣旨5件）	札幌市以外の場所での公立夜間中学の設置や自主夜間中学への支援については、所管が北海道教育委員会となりますので、いただいたご要望については、お伝えさせていただきます。 なお、札幌市教育委員会においては、北海道全体での公立夜間中学を含めた教育機会の確保に係る取組について協議を行う、北海道教育委員会主催の「夜間中学等に関する協議会」についても参加しており、北海道内の他の地域に向けた参考事例として、札幌市の取組状況を説明するなどの取組を行っています。
その他 （計画全体）	今後わずか1年で、多くの意見、要望に対する検討を行うのに、開校まで間に合うのかという不安が大きい。どれも前向きに、真摯に検討して是非とも叶えてほしい。	パブリックコメントのご意見などを参考にしながら、今後、詳細な検討を進めていきたいと考えています。

章(項)	主な意見の概要	回答
校名案	<p>つつむ中学校、霽月(せいげつ)中学校、さっぽろみんなの中学校、札幌中学夜間校、みらい中学校、星園中学校、せいえん中学校、資生館中学校、札幌中学校資生館分校、北斗資生館中学校、星空中学校、ゆかり中学校、福朗(ふくろう)中学校、力の輪(りきのわ)中学校、遠友中学校、遠友学館中学校、遠友縁(えんゆうえん)中学校、おいでよ遠友中学校、夢学中学校、夢望中学校、陽だまり中学校、あすなろ中学校、まなびの中学校、学びや中学校、まなび中学校、つばさ中学校、明鈴(めいりん)中学校、瑛鈴(えいりん)中学校、拓進学舎中学校、希望の杜中学校、第一中学校、明星中学校、大志中学校、すずらん中学校、創成中学校、創星中学校、おとな中学校、月夜の中学校、赤レンガ中学校、栄朋(えいとも)中学校、みかづき中学校、野沢中学校、修学館中学校、暮和(くれあい)中学校、希望中学校、希(のぞみ)中学校、昂(すばる)中学校、新友中学校、遠益夜(とおますや)中学校、にじのさと中学校、蛍雪中学校、明成(めいせい)中学校、平穏中学校、よつば中学校、凜凜(りんりん)中学校、北の学舎(まなびや)中学校、絆中学校、あかしあ中学校、時計台中学校、希望の星中学校、ゆめの中学校、友学館(ゆうがくかん)中学校、若葉はばたく中学校、学志中学校、ともしび中学校、星友中学校、共潤中学校、生学館中学校、虹をわたる中学校、明開中学校、希望の里中学校、又ブキナ・すずらん中学校、北虹中学校、光星中学校、スミレ中学校、青空中学校、オルガン中学校、希望々(きぼうみな)中学校、輝き中学校、星月(ほしつき)中学校、満月中学校、輝き星中学校、ナイト中学校、なかふか中学校、自然中学校、夢キラ中学校、月の輪中学校、ぜんと中学校、夜間中学校、笑顔中学校、日本中学校、パワフル中学校、夜夢中学校、夢追中学校、メアリー中学校、星友館中学校、大志館中学校、大通中学校、遠友夜学中学校、真NAVIの星中学校、希明中学校、望星中学校、カイン中学校、ひかりのもり中学校、星雪中学校、はまなす中学校、朋友中学校、友々(ゆうゆう)夜間中学校、まなびや中学校、流星中学校、蛍夜間中学校、願望夜間中学校、青春中学校、桜中学校、友学中学校、未来中学校、梟の杜中学校、あゆみの中学校、あけぼの中学校、清新中学校、紫苑中学校、桜立館(おうりつかん)中学校、風花(ふうか)中学校、西創成中学校、灯火(とうか)中学校、</p>	<p>頂いた校名案を基に校名検討委員会で検討を重ね、札幌市立星友館中学校という校名案に整理させていただきました。多くのご意見ありがとうございました。</p>

章（項）	主な意見の概要	回答
校名案	<p>しせいかん中学校、和陽中学校、夢未来(ゆめみらい)中学校、和実中学校、ぽぷら中学校、めぐみ中学校、輝命助(こうめいじょ)中学校、光(ひかり)中学校、きらぼし中学校、新渡戸中学校、未来じゅく中学校、自由中学校、鈴蘭中学校、月華中学校、ゆかりの中学校、緑雪(りょくせつ)中学校、あひる中学校、輝和(こうわ)中学校、オホーツク中学校、広学中学校、あやめ中学校、酉戌(ゆうじゅつ)中学校、Flowersmile中学校、暁(あかつき)中学校、黄昏(たそがれ)中学校、ふくろう中学校、冒険中学校、佳宵(かしょう)中学校、がんばる中学校、ゆめかなう中学校、ナイト館中学校、月夜中学校、はな山中学校、ひまわり中学校、ひかゆめ中学校、碧志中学校、北創(ほくそう)中学校、北創館(ほくそうかん)中学校、新豊(しんほう)中学校、輝中学校、未広(みひろ)中学校、さくら中学校、仲良し(なかよし)中学校、新学(しんまな)中学校、大勇(たいゆう)中学校、スマイル中学校、ライラック中学校、学友中学校、勇歩中学校、信葉(しんよう)中学校、黎明(れいめい)中学校、大海原中学校</p> <p>(以上、232件、177案)</p>	

---

札幌市公立夜間中学設置基本計画（案）に対する御意見の概要と札幌市の考え方

令和3年（2021年）3月

編集・発行 札幌市教育委員会学校教育部教育推進課  
〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 STV 北2条ビル  
TEL (011) 211-3851 FAX (011) 211-3852

---